

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。



監督：呉美保 主演：吉沢亮 脚本：港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん
原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作：五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース：山国秀幸

制作：「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダースタジオ/博報堂DYエンターテインメント/ギャガ/RS西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマランド)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給：ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく……。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の具美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

*コーダ：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



バリアフリー 日本語字幕付き上映

本巣市民文化ホール 2026年2月7日(土)

※上映時間 ①14:30~16:15

多治見ヤマカまなびパーク 2026年2月21日(土)

※上映時間 ①11:00~12:45 ②13:30~15:15

ギフメディアコスモス 2026年3月25日(水)

※上映時間 ①14:30~16:15 ②18:00~~~20:15~~ 19:45

高山市民文化会館 2026年3月28日(土)

※上映時間 ①14:30~16:15

【前売券】 一般1200円 【当日券】 一般1500円 大学生1300円 小中高生800円

【チケット取扱】 (一社)岐阜県聴覚障害者協会 チケットぴあ(セブンイレブンで購入出来ます) Pコード番号468-441 (どの会場でも使えます)

【主催】 シネマ ソラ(☎075-202-2211 メール:cinema_sora_0416@zeus.eonet.ne.jp)

【共催】 (一社)岐阜県聴覚障害者協会(FAX058-274-1800 メール:gifudeaoffice@waltz.ocn.ne.jp)